

経営比較分析表（令和4年度決算）

北海道 津別町

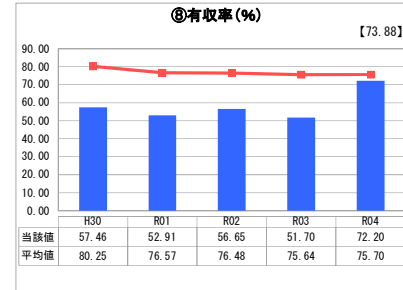
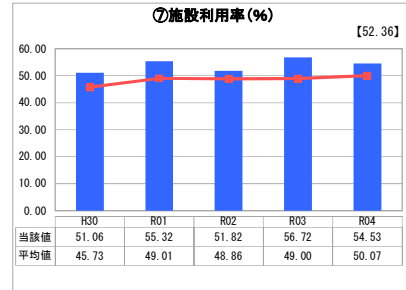
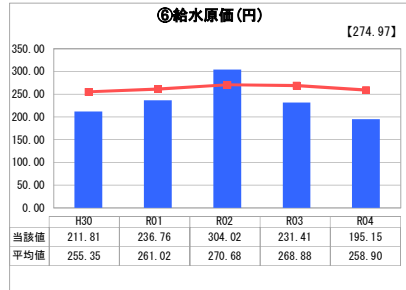
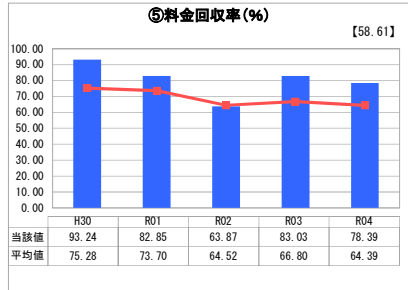
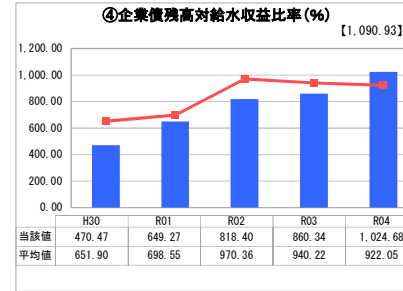
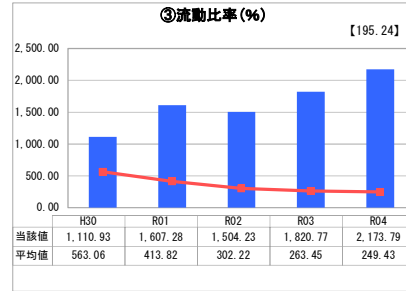
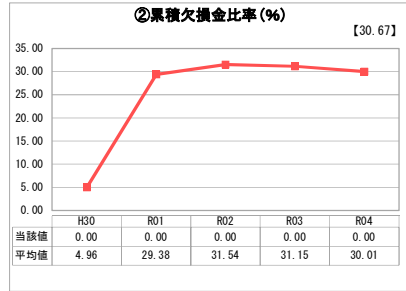
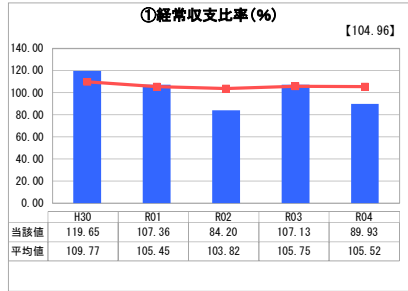
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	54.93	94.86	4,400	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
4,211	716.80	5.87
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
3,929	58.07	67.66

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、人口減少等による料金収入の減少や、維持管理コスト等の費用増高の影響から低下傾向にあり改善が急務となっているが、経営コストの見直しも含め、安定的な黒字化に向けた努力を進めていくこととする。

現在大規模な更新投資を行っているところであり、企業債残高対給水収益比率については、給水収益に対する起債残高が大きくなっているところであるが、安定的な給水を継続するためにはやむを得ない側面もあることから、今後も経営状況を把握しながら給水収益から大きく乖離しないことを意識しつつ、適切な更新投資を継続することとする。

流動比率については上昇傾向で数値的にも問題は無いものと考えているが、現在進行中の更新投資により、今後見込まれる起債償還のための内部留保の側面もあるため、より一層の向上を目指すこととする。

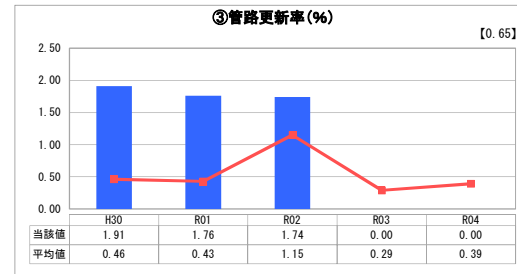
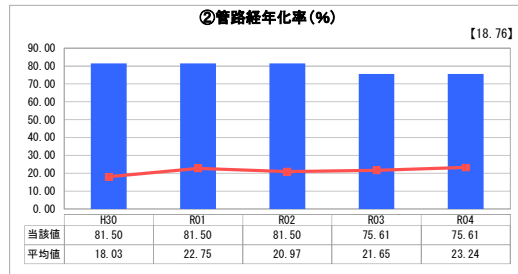
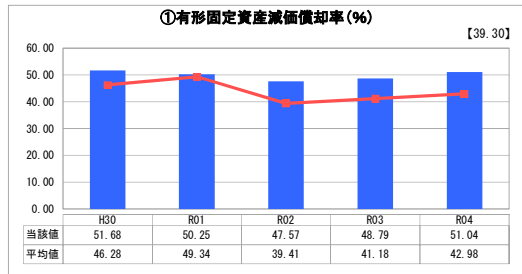
有収率は改善傾向にあり、類似団体に追いつきつつあるものの未だ改善の余地は多く、経営状況に見合った更新投資を進めることにより、有収率の向上を図り、料金回収率、給水原価等の指標に繋げることが今後の目標と考える。

2. 老朽化の状況について

類似団体との比較で、有形固定資産減価償却率はほぼ同水準にあるものの、管路の経年化率は大きく下回っている状況にあり、後は老朽管路に対する計画的な更新投資が必要と認識している。

直近では、配水施設の老朽築設に投資を集中させていることもあり、老朽管路の更新は行っていないが、安定した給水体制を維持するためには老朽管路の計画的な更新は、今後の必須事項としてとらえている。

2. 老朽化の状況



全体総括

財務諸表上の健全性は、概ね類似団体と同等の内容で推移しているが、今後の人口減少による給水収益の減少が予想される。

また、老朽施設の継続的な更新が必要となっているが、更新投資により生じる起債の償還が、今後の経営に与える影響が大きくなることから明らかであるため、経営状況を適切に把握し、経営改善に向けた努力を継続しなければならない。